

平成25年度研究開発実施報告書（要約）

1 「研究開発課題」について

高校生に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人の基礎となる力を培うため、教科「公共（仮称）」を創設し、道德教育、就業体験を核にしたキャリア教育、グローバル化・高度情報化が進むなど急激に変化する社会における今日的な課題に対応した教育を柱にした教育課程の研究開発を行う。

2 「研究開発の概要」について

本研究は、高校生に「人間としての在り方生き方について考える力」「課題を解決する力（特に、判断して行動する力）」「コミュニケーション能力（特に、他者との関係性をつくる力）」という3つの力を、自立と共生の能力を兼ね備えた社会人の基礎となる力（社会人基礎力）として培うため、高等学校で教科「公共」を創設し、教育課程の研究開発を行う。その際、「社会人」を「職業人、地域の一員、家庭の一員」の側面からとらえ、道德教育、就業体験を核にしたキャリア教育を柱に、その他今日的な課題に対応した教育を加え、それらを体系化した教育課程を学校の実情や生徒の実態に応じて4校で共同開発する。

3 「研究の仮説と目的等」について

(1) 研究仮説

「道德教育」、「キャリア教育」、「その他今日的な課題に対応した教育」に関する学習と就業体験等の体験活動を履修の要件とする教科「公共」を教育課程に位置付けることにより、高校生に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人となるための基礎力を培うことができる。

(2) 研究の目的

高等学校学習指導要領総則では、道德教育は学校の教育活動全体を通じて行うことと示され、また、「人間としての在り方生き方を考えさせること」について、公民科や総合的な学習の時間、特別活動の目標として掲げられている。しかし、高等学校においては、小・中学校のように道德性について示されておらず、「道德の時間」のように道德教育の要となる時間（領域）が特設されていない状況にある。

また、キャリア教育の視点からは「コミュニケーション能力」「課題を解決する力」について、これらの資質や能力の育成とそのための指導が学習指導要領総則や総合的な学習の時間、特別活動等に示されているが、社会人として実際に求められる「（課題を解決するために）判断して行動する力」や「他者との関係性をつくる力」については示されていない。

上記のような力を育むための道德教育、キャリア教育等については、これらの指導を行う専任の教員がいるわけではなく、各教員の創意工夫に委ねられており、校内の推進体制が十分でない状況も見られる。

そこで、学校の特色や教育目標に基づいて道德教育やキャリア教育等を全体的な計画としての年間指導計画に位置付けるだけでなく、道德教育やキャリア教育等を内容とする教科「公共」を教育課程に位置づけ、その効果等についての研究を行う。

また、教科「公共」では、就業体験等の体験活動を履修の要件として位置付け、従来、特別活動として取り扱っていた体験活動を教科「公共」の内容として履修させることで、学校の組織体制の変化や各教科・科目との効果的な連携、生徒の変容、教員の意識等についての調査・研究を行うことを目的とする。

(3) 必要となる教育課程の特例等

① 総合的な学習の時間の代替として教科「公共」を設置

教科「公共」は、「人間としての在り方生き方について考えさせること」「課題を解決する力（特に、判断して行動する力）を身に付けさせること」「コミュニケーション能力（特に、他者との関係性をつくる力）を身に付けさせること」を目的としているため、総合的な学習の時間に代替して教育課程上に位置付けている。教科「公共」は、卒業までに2学年以上にわたり2～3単位（70～105単位時間）とする。

② 教科「公共」では、就業体験等の体験活動を履修要件として加える。

課業中のインターンシップや、長期休業中のインターンシップ、ジョブシャドウイング等における単位認定の方法についての研究を実施する。

4 「研究内容」について

(1) 教育課程の内容

① 教科「公共」の体系的な教育課程

ア 教科「公共」の目標の設定

【目標】

道徳教育、キャリア教育、今日的な課題に対応した教育を柱として、人間としての在り方生き方について考察し、主体的に課題を解決する力や他者との関係性をつくる力を高め、自立と共生の能力を兼ね備えた社会人としての基礎を育てる。

イ 教科「公共」科目の内容

(a) 公共 I

【目標】「自己と社会を知る」

自己を確立しつつ他者を受容する姿勢を育む。また、人間としての在り方生き方についての理解を深め、規範意識を身につけた社会人としての基礎を育てる。

【内容】

《道徳教育》

(7) 自然を愛護し自他の生命を尊重する

様々な道徳的課題を通して、生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養う。

(4) 他者への思いやりの心をもつ

集団の中での協働体験を行い、人間関係の形成について自他を尊重する態度を養う。

(7) 自分の身近にある道徳的課題について理解する

身近に起こりうる道徳的な諸問題を取り上げ、その問題について探求し考察することを通して、現代的な課題と自己とのかかわりについて考える。

《キャリア教育》

(エ) 自己の将来の生き方について考察し、可能性を模索する

社会に尽くした先人の話の聞き取り体験を行い、地域の先人に対する尊敬と感謝の念を深め、地域社会を愛し、自らの生き方・在り方を考察する。

または、産業現場で働く人々へのインタビューを行い、具体的な仕事内容や労働への喜び、誇り等を聞き取り、勤労観や職業観を養う。

(カ) キャリア形成における人間関係資本（ソーシャルキャピタル）の重要性を知る

ソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニング等の活動を通して、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。また、自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努める態度を養う。

(カ) 自分自身を見つめ、自分の学ぶ意味について考える

自分史の作成や自己理解のためのアンケート等の活動を通して、自己の将来の生き方について考察し、今後の自分自身の可能性を含めて肯定的に理解する態度を養う。

《今日的課題に対応した教育》

(キ) ストレスマネジメント力を身につける

ストレスについて理解を深め、自分の心身の状態に目を向け、ストレスに適切に対処する方法を身につける。

(7) 課題解決に向けての基礎的な論理的思考の仕方を理解し、自己とのかかわりを考える

消費者問題等、現代社会で身近に起こりうる諸問題を取り上げ、法の視点など、様々な視点から公正な判断をするための知識を習得し、社会問題への関心を深め、論理的思考の仕方を理解するとともに、今日的な課題を発見し設定する力を身につけ、自己とのかかわりについて考える。

(b) 公共Ⅱ

【目標】「社会に触れる」

現代社会への様々な課題への興味・関心を高め、多様な他者との関係性をつくる力を培う。また、人間としての在り方生き方について自覚を深め、共生の能力を備えた社会人としての基礎を育てる。

【内容】

《道德教育》

(ア) 他者を受容する姿勢を持つ

多様な他者とのかかわりや自己が属する様々な集団の意義を考察することを通して、公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める姿勢を養う。

また、自分の将来を見通して個性を発揮し、それをのばすことによって社会に奉仕する態度を養う。

(イ) 社会における多様な道徳的課題について知り、自己の生き方を探求する

社会における道徳的な諸問題を取り上げ、その問題について調査・研究し考察することを通して、現代に生きる人間の道徳的課題について自己とのかかわりにおいて思索を深め、社会に主体的に貢献しようとする姿勢を養う。

《キャリア教育》

(ウ) 体験活動を通して社会における課題解決の実際、勤労観・社会奉仕の精神、関係性づくりを身につける

希望する職種への就業体験活動やジョブシャドウイング等の体験活動を通して、社会における課題解決の実際を学び、勤労観や職業観、社会奉仕の精神、創造することの喜びを体得し、関係性づくりを身につける。

(エ) 自己の将来に向けて多様な生き方を探求する

進路情報を活用して様々な職業やその職業に就くための上級学校の教育内容などを自ら調査・研究すること等を通して、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成する力を身につける。

《今日的課題に対応した教育》

(オ) 現代的な社会問題への関心を高め、身近な問題の解決について考える

学校や地域の諸課題解決のために、保護者や地域の代表者、教職員との議論の場に参加し、社会参画の意義を実感し、主体的な課題解決能力を育成する。

(カ) コミュニケーションやプレゼンテーション能力を身につける

体験活動や調査研究活動に関するプレゼンテーションを通して、思考力や判断力、表現力を高めるとともに、考えを伝え合うことで自らの考えや集団の考えを高める。

(c) 公共Ⅲ

【目標】「主体的に社会と関わる」

主体的に判断し課題を解決する力や他者との関係性をつくる力を高める。また、人間としての在り方生き方について思索を深め、自立と共生の能力を兼ね備えた社会人としての基礎を育てる。

【内容】

《道德教育》

(ア) 社会の一員としての自己の生き方生き方を探求する

社会における道徳的な諸問題を取り上げ、その問題について調査・研究し考察することを通して、自分自身を見つめ、自己のあり方生き方を考えながら、「生きる力」の育成を図るとともに、社会の一員としての自覚をもって発展に努める態度を養う。

(イ) 社会における多様な道徳的課題の解決を図り、よりよい社会の実現に努める

身近に起こりうる道徳的な諸問題を取り上げ、その問題の解決について考え、現代に生きる人

間関係の在り方について考察し、社会に主体的に貢献しようとする姿勢を養う。

《キャリア教育》

- (㍑) 主体的な社会参画により課題解決能力や関係性づくりを身につける
イベント等の企画・運営に地域や産業現場と共同で関わり、企画準備段階からイベント等終了後の振り返りまで携わることにより、主体的な課題解決能力を養い、社会の一員としての自覚を持って社会参画の意義を実感する。
- (㍑) 自己の将来に向けて主体的にキャリア形成する態度や具体的なキャリアプランニングを行う力を身に付ける
多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用することを通して、自ら主体的に判断してキャリアを形成し、キャリアプランニングを行う力を身につける。また、自己の将来に向けた目標や思いについて説明できる力を身につける。

《今日的課題に対応した教育》

- (㍑) 市民の一員としての政治参加を通して自己の価値観を明確にする
特定の政治課題について自ら考え行動できるような模擬投票等の政治参加体験に参加し、自己や社会のよりよい未来の実現に向けて、責任をもって積極的に政治に参加する姿勢を養う。

ウ 「公共」内容の取扱い

- (a) キャリア教育、道徳教育、今日的な課題に対応する教育の3つの領域について、他の教科やホームルーム活動とも関連付けて、それぞれ計画的に実施できるよう年間指導計画をたてる。
- (b) 教科「公共」は生徒や地域の実態に応じ、3～6単位で実施する。複数単位実施する場合は、「公共Ⅰ」「公共Ⅱ」「公共Ⅲ」の順に履修するものとするが、今日的な課題に対応する教育の領域については、生徒の実態に応じて履修時期を工夫することができる。
- (c) 各科目における体験活動は、科目履修の要件とする。体験活動の実施については、学校の実態に即して、長期休業中や授業内等の実施時期や実施形態を工夫する。体験活動の事前・事後指導に加え、勤労観、職業観をテーマとした道徳の時間やコミュニケーションスキルアップ講座、キャリアプランニング等を実施し、体験活動の効果を高める。
- (d) 道徳教育においては、学校における道徳教育の全体計画の中に位置づける。生徒の発達段階に応じて、読み物教材や映像教材等工夫する。また、知識・理解に留まらず、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。
- (e) 生徒が多様な意見や考え方の中で発表、表現、合意形成を行う過程を実践することで、考える力、判断する力、表現する力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が育成できるよう、班討議やクラス討議、ディベート等言語活動を取り入れる。

【参考】

社会人基礎力 概念図



※(道)道徳教育 (キ)キャリア教育 (今)今日的課題に対応した教育

② 各研究開発学校の取組の概要(表1)

研究開発学校は、社会人としての基礎力を育む教科「公共」について、「公共」「道徳」「社会人基礎力Ⅰ～Ⅲ」等、学校の実情や生徒の実態に相応した科目名を設定し、「総合的な学習の時間」に代替して教育課程に位置付けている。

ア 兵庫県立舞子高等学校

第1学年と第2学年において科目「公共」(各1単位)を設定している。独自教材「あなたのための社会(第1学年用)」「子どもの権利条約(第2学年用)」を開発し、探求的な学習や班・クラスでの討論を中心とした授業を展開し、授業で身に付けた討議の力を、舞子SPT(生徒、保護者、教員の懇談会)、神戸カタリ場、対話型インターンシップをめざした企業研究などの体験活動と連携して、研究を推進している。

イ 兵庫県立猪名川高等学校

第1学年から第3学年において、社会人基礎力を育むための科目「道徳」(各1単位)を設定している。高校生の発達の段階に応じた教材を開発し、全体計画に基づき、各学年団が計画的に道徳の授業を展開している。特に、第1学年では、「お年寄りにきく」という体験活動、第2学年では、全生徒を対象に生徒の希望に応じた事業所におけるインターンシップを実施し、体験活動と「道徳」との連携に係る研究を推進している。また、各教科との関連及び高校生の発達の段階に応じた教材開発に全教員で計画的に取り組んでいる。

ウ 兵庫県立加古川北高等学校

第1年次で1単位、第1,2年次で履修時間数のポイント・リザーブ制により1単位を、科目「公共」として設定している。研究担当及び第1年次団を中心に、道徳教育、キャリアプランニング、職場体験活動、大学研究、政治参加教育、法教育をそれぞれユニット化して実践するとともに、ユニット化から体系化を目指した研究を推進している。第1,2年次でジョブシャドウイング、インターンシップ、企業見学・研究、大学研究を取り入れ、普通科における社会人基礎力の育成を目指したキャリア教育を中心として研究を推進し、その成果について、生徒のアンケートから分析を行っている。特にジョブシャドウイングは、先進的な体験活動として、ジョブシャドウイング等を同一年次または

複数年次に渡り生徒が複数回体験することや、ジョブシャドウイングとインターンシップとの連携について研究を推進している。

エ 兵庫県立上郡高等学校

コミュニケーション能力（聴く力・伝える力・協働力）の育成を柱に、第1学年では「自己理解・他者理解」、第2学年では「キャリアプランニング」、第3学年では「課題解決」に焦点化するとともに、「道徳教育・心理教育」を各学年に適切に配置して、キャリア教育を体系的に学ぶ3年間の包括的プログラムの作成を目指して研究を推進している。

今年度は、第1学年から第3学年において、それぞれ科目「社会人基礎Ⅰ～Ⅲ」を設定するとともに、第1学年の全生徒を対象とした職業人インタビュー、第2学年の全生徒を対象とした課題期間中におけるインターンシップ、第3学年の全生徒を対象とした課題解決を実施している。

表1 平成25年度 研究開発学校（4校）の取組の概要

	科目名	卒業までの履修単位数	H25年度実施単位数	H25年度の取組の特徴	H25年度体験活動の実施
兵庫県立舞子高等学校 「シティズン型」	「公共」	1・2年で各1単位	1・2年で各1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたのための社会、子どもの権利条約の自作教材による討議による授業の展開 ・授業での班討議の力を様々な体験活動と連携して実施 ・「企業体」を意識した、学校と企業の互恵関係のある対話型の工場見学 ・単元の関連性を高めた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・「舞子SPT」 ・シティズン講座 ・キャリア講座 ・神戸カトリック ・対話型インターンシップを目指した工場見学
兵庫県立猪名川高等学校 「道徳型」	「道徳」	1・2・3年で各1単位	1～3年で各1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・1年～3年（全学年）での「道徳の時間」の実施 ・高校の発達の段階に応じた教材や、社会事象など身近な問題を扱った教材の開発 ・「インターンシップ」や「お年寄りに聞く」等の体験活動と道徳の授業との関連付け ・全学年・全教職員体制による研究の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年による「お年寄りにきく」 ・生徒の希望に応じた第2学年全員によるインターンシップ（夏季休業中3～5日）
兵庫県立加古川北高等学校 「キャリア型」	「公共」	1・2年次で2単位 ポイント・リザーブ制	1年次で1単位 1～2年次で1単位 ポイント・リザーブ制	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング等の体験活動による社会人基礎力の育成 ・ジョブシャドウイングとインターンシップの連携の検討 ・ジョブシャドウイングとインターンシップ等の体験活動の複数回実施の検討 ・道徳教育・政治参加教育・法教育と体験活動との連携 ・体験的な政治参加教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブシャドウイング ・インターンシップ ・企業見学、研究 ・大学研究 ・ボランティア活動 ・模擬投票
兵庫県立上郡高校 「包括キャリア型」	「社会人基礎Ⅰ～Ⅲ」	1～3年で各1単位	1～3年で各1単位	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動と心理教育・道徳教育を通して、心の教育の体系化及び言語活動の重視 ・生徒の成果発表や大学生活の体験など中高連携、高大連携の推進 ・Q-U、振り返りシート（自己評価）、保護者地域住民へのアンケート等による評価の取組 ・課題対応解決能力育成に向けた体験活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1学年 職業人インタビュー ボランティア体験 生徒が開発した（アクションレニングプログラム）の中学生への実施 ・第2学年 全生徒による授業中のインターンシップ（上級学校含む） ・第3学年 生徒主体による企画立案、商品開発、販売等課題解決に向けた体験活動「すーく上高」の実施

(2) 研究の経過

年度	月	運営指導委員会等の動き	各研究開発学校の動き（校内打合せ等は除く）
	4月	担当者会	

平成23年度	5月		運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校）
	6月		運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）
	7月	第1回運営指導委員会	公開授業・研究協議（県立猪名川高等学校）
	8月		
	9月		
	10月	第2回運営指導委員会	
	11月		運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校） 公開授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
	12月	各校ヒアリング（事務局）	公開授業・研究協議（県立猪名川高等学校）
	1月		
	2月		公開授業・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）
3月	第3回運営指導委員会	公開授業（県立舞子高等学校） 公開授業・研究協議・運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校） 運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）	
平成24年度	4月		運営指導委員会分科会（県立舞子高等学校）
	5月	各校ヒアリング（事務局）	運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
	6月		研究授業及び運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校）
	7月		各校ホームページ公開
	8月	上郡高校・加古川北高校訪問	
	9月		研究授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校） 文部科学省実地調査（県立猪名川高等学校・県立舞子高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
	10月		研究授業・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立舞子高等学校） 研究協議（県立上郡高等学校）
	11月	第1回運営指導委員会	研究授業・運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
	12月	教育委員会Webサイト公開	研究授業・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）
	1月	各校ヒアリング（事務局）	研究授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
	2月		運営指導委員会分科会（県立舞子高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校） 研究協議・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）
	3月	第2回運営指導委員会 教育委員会Webサイト報告書公開	研究授業・研究協議（県立舞子高等学校）
	平成25年度	4月	
5月			講演会・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）
6月		第1回運営指導委員会	研究授業・運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校）
7月			
8月			運営指導委員会分科会（県立舞子高等学校） 運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
9月		第2回運営指導委員会	研究授業・研究協議（県立舞子高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校）
10月			研究授業・運営指導委員会分科会（県立舞子高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）

11月	第3回運営指導委員会	運営指導委員会分科会（県立舞子高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校）
12月		
1月		研究授業・運営指導委員会分科会（県立加古川北高等学校） 研究授業・運営指導委員会分科会（県立上郡高等学校）
2月		研究授業・運営指導委員会分科会（県立猪名川高等学校）
3月		研究授業・研究協議（県立舞子高等学校）

(3) 評価に関する取組

- ① 大単元ごとに生徒アンケートを実施し、実施した内容や生徒の変容について調査・分析を実施している。
- ② 猪名川高校では、道徳の授業において第1学年～第3学年すべての生徒を対象に毎時間振り返りアンケートを実施し、高校での道徳の授業についての評価・分析を行っている。また、毎時間の道徳の授業のアンケートの実施は、指導と評価の一体化として、教員の授業の自己評価として活用している。
- ③ 上郡高校では、第1学年を対象に年度当初と年度末にQ-U（学級満足度・学校生活意欲尺度調査）及びコミュニケーション自己評価を行い、生徒の変容について分析を行っている。また、年度末に教員対象に生徒の変容について、アンケート調査を行っている。

5 「研究開発」の成果について

(1) 生徒への効果

① インターンシップ・ジョブシャドウイング等の体験活動

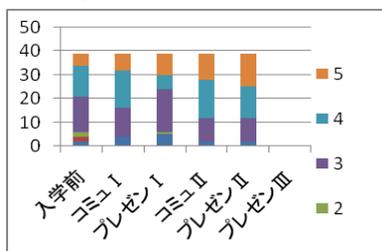
研究開発学校4校で実施しているインターンシップ等の体験活動は、生徒が自己の高校生活を充実させる学習や生活の改善への契機となっている。大学進学を希望する生徒が多い加古川北高校の生徒アンケートでは、再度、職場体験に参加したいという意見が89.5%になるとともに、生徒の職業に対する興味・関心が高まった。

上郡高校では、系統的にキャリアプランニング、コミュニケーション能力の育成に取り組んだ結果、第2学年では、生徒の学校生活や授業に対する姿勢の変容を確認できるとともに、生徒のアンケートでは、「ルール、マナー、時間の大切さを理解し、身についた」、「責任の重さ、感謝される喜びに気付いた」という意見があり、事前、事後指導やインターンシップ等で学んだことを通して生徒の自覚を促している。

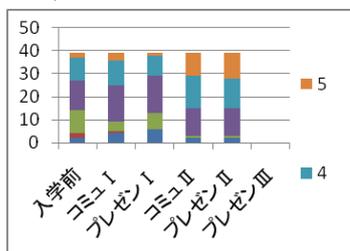
② 体系的な指導による生徒のコミュニケーション能力の育成

上郡高校での生徒によるコミュニケーション自己評価によると、「聴く力」「伝える力」「協働力」の3つの要素において、評価5をつけた生徒の割合が徐々に増加しており、単元を進めるごとに、生徒がコミュニケーション能力の大切さを理解し、学校生活において他者の存在を意識した行動が見られるようになるという生徒の変容につながっている。

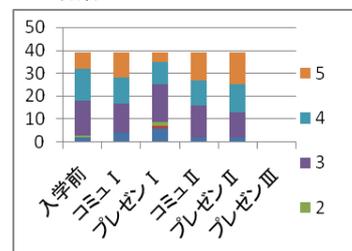
A：聴く力



B：伝える力



C：協働力



(1年生対象クラス)

③ 班討議を中心とした授業での合意形成の過程におけるコミュニケーション能力等の育成

舞子高校での「公共」の授業では、一斉指導のみではなく班討議やクラス討議を行うとともに、舞子SPTにおいて生徒が多様な意見や考え方の中で合意形成を行う取組を計画し継続して実践することで、生徒が「考え、自分の言葉で語る」を実践している。「自分の考えだけにとらわれずに他の人の意見を取り入れて、班としてさらにいい意見を出す力がついた」と実感している生徒もいた。合意形成していく授業に対して、従来の一斉指導型とは違う良さを生徒が見出していることがわかる。また猪名川

高校での道徳の時間でも、グループワークやディベート等も取り入れ、生徒の活動が大幅に増えた。

④ 「道徳の授業」の効果

猪名川高校が実施した読み物教材を活用した道徳の授業の時間における授業後のアンケートでは「成長するきっかけは意外と近くにあるんだなと思った」（1年生）「誰かのために行動するということは、どんな小さなことでも多くの人を救うことができる」（3年生）など生徒の内面にせまる授業が行われていることが窺える。教員と生徒並びに生徒相互が人間としての在り方生き方について語り合う場を作り出し、自覚を深めていることがわかる。

教材開発として、一般図書を活用した授業では、生徒にとって身近なものを教材としていることから生徒の反応は良く、映像教材では、読み物資料より生徒の反応が非常に良いことがわかった。しかし、これらの教材は、内容項目の焦点化がしにくく、生徒に捉えさせるべき内容を教員が誘導してしまうなど、教材の選定に加え、指導内容、指導方法について校内で十分な議論を行った上で、授業を行う必要がある。

また、評価については、教員の実感としての評価は可能であるが、アンケート等により生徒の道徳性を評価することに苦慮しており、引き続き研究開発学校で情報等を共有しながら、道徳性を育成する教材、指導内容、指導方法、評価について研究を進める。

⑤ 今日の課題に対応した教育に関する取組の効果

加古川北高校では、現代社会と実施時期を連携させた政治参加教育における模擬投票を実施し、加古川市選挙管理委員会の協力を得て、実際に投票で使用する機材を使用した。生徒の事後アンケートでは、「投票をする際には、情報を基に、社会や自分の状況と照らし合わせて考えることが大切である」などの意見があり、模擬授業等の実践を通して生徒が現代の問題をより身近に感じ、考える契機となっている。

(2) 教員への効果

① 職員研修を通じた共通認識・共通理解

研究開発学校では、体験的な活動を中心に、取組の目的や指導方法等に対する共通認識、共通理解が深まった。職員研修会を通じて、高等学校における道徳教育の在り方や道徳の時間の特性を学び、道徳教育の重要性を全教員が認識するようになったり、アサーション・トレーニングについてストレスの対処方法を学ぶなど、学校全体で研究開発に取り組むことにより、全教職員の共通認識、共通理解が進んでいる。

② 多面的な生徒の理解

教科「公共」の研究により、学年団や全学年など多くの教員が関わって生徒をよく観察する機会や生徒の反応について話し合う機会となり、生徒の発言、行動や、Q-Uの結果や単元終了時の感想文及び自己評価などから、生徒を多面的に捉えることができ、個々の生徒情報の共有化が進み、教員の生徒理解につながった。

③ 教員の資質向上

教科「公共」の研究開発を通じて、教員が教材開発や指導内容、指導方法の工夫を行い、教科指導の在り方や学級経営の在り方を考え実践する契機となった。また、コミュニケーション能力の形成には、班討議やグループ学習が有効であるという認識が深まった。

道徳教育やキャリア教育についての経験の少ない教員への研修を実施することから、教員側の良い研修の機会となるとともに、生徒の社会人基礎力を育むという観点から、教科等だけではなく生徒と共に生き方在り方について考え、大人としての基本姿勢や考えを持つ必要性についての認識が高まっている。

④ 校内体制の確立

猪名川高校では、道徳の授業を全教員が道徳授業を実施することで道徳教育の意義を全教員が認識することができた。教員のアンケートにおいても、「自分自身を見直す機会になればと思った」と、自分自身の授業そのものの振り返りつながるより、道徳の授業力だけではなく、他の授業にも良い影響を与えている。

各研究開発学校において、校内体制を確立しつつ学校全体での取組となっているが、新しい教科として実施することや体験活動を履修要件としているため、教員の負担が増えるという意見がでていいる。研究開発として、これらを教育課程として実施する上で、新しい協働体制での校内体制を研究する契機となっている。

(3) 保護者等への効果

教科「公共」での体験活動の積極的な実施により、保護者の公開授業の参加や、地域での活動を見守る機会の増加、インターンシップやジョブシャドウイングへの協力など、学校と連携する機会が増えている。保護者のアンケートにおいて「あいさつをしてくれる生徒が多く、さわやかな印象を受けました」、「先生と生徒の関係が良さそうに感じ、年ごとによくなってきている」などの意見がよせられており、研究開発での新しい積極的な取組によって、保護者の学校への理解と協力を得るに至っている。

(4) 地域への効果

- ① インターンシップ、ジョブシャドウイング、工場見学等の受け入れ企業からは、「第三者から見られ、質問されることで、仕事の意義や職場での役割を再確認できた」「仕事に対する新たな気づきがあった。」など、従業員の意識の振り返りにつながるといふ企業側のメリットを踏まえ、今後も継続した受入の要望をいただいている。
- ② 上郡高校では、授業等を地域住民や地元の教育委員会、中学校等に公開するなど、学校情報を公開するとともに、研究協議会への参加を依頼し協力を得ている。その結果、地域住民や地域の教育委員会からの理解や信頼を得ており、卒業生が「母校を誇りに思う」などのアンケート結果がある。また、地元中学校との教科の合同研究授業が実施されるようになった。

(5) 実施上の問題点と今後の課題

① 全体としての課題

ア 学年ごとの目標に対する評価規準を明確にし、評価方法を確立する。

イ 教科「公共」の実施による生徒の変容等の効果について、客観的データ等を用いて詳細に分析する。

ウ 各研究開発学校での研究の効果の実証性を高めるため、教材や指導方法を共有するなど、研究開発学校間の連携を強化する。

② 研究開発学校ごとの課題

【舞子高等学校】

ア 資料学習の分野では、家庭での事前学習が前提とされており、いかに家庭での学習に取り組ませるか。

イ 班討議で、対立する意見の交換やそこでの合意づくり、そして自分の考え方をより発展させる段階へどのように指導していくか。

ウ プレゼンテーションについて、1、2年次における知識と技能の到達すべきレベルを明らかにする。

エ 舞子SPT（生徒、保護者、教職員の話し合い）が、役員中心になりがちな形態を改善する。

オ 環境防災科と普通科との連携を図る。

【猪名川高等学校】

ア 道徳教育において、教員が一斉授業形態での実施が基本だが、話し合いやディベート等、一斉授業以外の方法を試みる。

イ 道徳の授業で求められるストーリー展開、道徳的価値に気付くための「しかけ」の設定等を考慮した教材の開発を継続する。

ウ 道徳教育を全教員で行う中で、教員の負担感を軽減させるための体制づくりを行う。

【加古川北高等学校】

ア 政治参加教育や法教育について、高校生に適したテーマや内容・実施時期等を慎重に設定する。

イ 地域の商工会議所や選挙管理委員会、ジョブシャドウイングやインターンシップの受入事業所等、関連機関との十分な連携を図る。

ウ 体験活動の事前指導・直前指導を徹底し、体験活動先に快く受け入れてもらう。

エ 生徒間で各自の体験の成果を共有し定着させるため、発表の方法等をさらに工夫する。

【上郡高等学校】

ア 3学年にわたる「社会人基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の系統立った実施について、各学年での配当単位等さらなる検討・工夫をする。

イ 客観的評価のためのデータづくりが難しく、その評価方法についてさらなる研究が必要である。

ウ 継続的实施に向けて、「社会人基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のテキストの検討整備を行う。